【研究内容　児童会活動】

委員会活動で大切にしたいことを見つめ直す一過程　～現実の課題解決を通して～

宮城県仙台市立八幡小学校
教諭　中村　佑

１　主題設定の理由

新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため，令和２年３月２日からの一斉休校が決まった。突然の出来事であったことを今でも思い出す。休校が終わり，学校が再開された令和２年度の学校生活は，感染症対策との兼ね合いを考えながら過ごさなければならなくなった。

学習指導要領（平成２９年告示）特別活動編解説には，「児童会活動（１）児童会の組織づくりと児童会活動の計画や運営」によって育成される資質・能力が三つ示されている。三つ目は以下のとおりである。

> ○学年や学級が異なる児童と協力し，自他のよさに気付いたり，自分のよさを生かして活動に取り組んだりして，児童会活動の計画や運営に主体的に取り組み，学校生活の充実と向上を図ろうとする態度を養う。（下線は発表者）

委員会活動のみならず，特別活動は「異学年交流」を基本としているものが多い。学校は交流する場である。しかし，交流をしてはならない状況下になってしまい，どのように教育活動を展開していかなければならないのかを考える必要があった。従来の方法を工夫することで活動させることもできたかもしれないが，あえて別の方法を模索し実行していくことで，これまで大切にしてきたことやこれからも大切にしたいことを見つめ直すきっかけとしたいと考え，本主題を設定した。

２　実践の概要

（１）「委員会活動で大切にしたいこと」の明確化～「学校を支える役割を果たす」～

本校では，感染症対策として「異学年交流を当面行わない」ということになった。従来の方法で委員会活動を行うことも考えられたが，別の方法でできないかということを考えついた。

そこで，先生方に従来の方法ではない形で委員会活動を行いたいと伝え，「委員会活動で大切にしたいこと」と「活動のアイディア」についてアンケートを取った。その結果をまとめ，「委員会活動で大切にしたいこと」を「学校を支える役割を果たす」と設定した。

（２）委員会学級輪番制

感染症対策を伴った「学校を支える役割を果たす」ための委員会活動の実施方法として，委員会を学級で組織し，１か月ごとに委員会を輪番で行う「委員会学級輪番制」を採用した。（例えば，７月は給食委員会，８月は図書委員会というように行っていく。）

各クラスでは，委員会ごとに委員長１名・副委員長１名・書記２名を決め，「中心」となって進めていく意識を持たせた。全員が委員会の要職を経験することになった。また，役割になっていないからといって任せるのではなく，「クラスのみんな」で進めていくという意識も持たせるように努めた。

「委員会学級輪番制」を行うにあたり，高学年担任の負担軽減が課題として挙げられた。そこで，高学年担任以外の先生が各委員会を担当し，委員会の時間は主に担当の先生を中心に活動することにした。担任は，「委員会学級輪番制」を「学級経営の一つ」として捉え，役割分担などの際に進めることにした。活動内容は，常時活動がある委員会はその活動を最優先し，無理のない範囲で行うことにした。

（３）「つながり」を生む

〇学校教育目標や目指す児童像，協働型重点目標，スローガンを意識する

本校の学校教育目標は「自他を愛し　豊かな感性と知識を身に付け　未来を切り開く児童の育成」であり，目指す児童像は「学び合う子　伝え合う子　認め合う子」となっている。また，学校教育目標を達成するためのスローガンを職員から募集し投票によって決定しており，令和２年度のスローガンは「一歩ふみだそう！　自分を信じて　仲間を信じて」であった。スローガンは，学校の諸活動全てで意識することにしている。児童会でもスローガンとして採用し，児童の立場からスローガンを達成するためにどんな取り組みをしたら良いかを考える拠り所としていた。「委員会学級輪番制」も，スローガンを達成するための取り組みと考えた。

〇６年生からの委員会紹介＆次の学級への引き継ぎ（動画・文章）

本来は，前年度に経験している６年生が５年生を導くことで委員会活動を成立させていた。しかし，「委員会学級輪番制」を取り入れたことで，そのような体制を取ることができなくなった。そこで，６年生に依頼し，委員会の紹介ビデオを作成してもらった。紹介ビデオの中では，「①これまでの活動紹介②委員会の魅力・やりがいを感じること③大変だったこと・なかなかうまくいかなかったこと」を入れてもらうことで，委員会活動再開をスムーズなものにできるようにした。６年生からの委員会紹介を見たり，担当の先生に指導してもらったりすることで，委員会の活動内容を理解することができた。

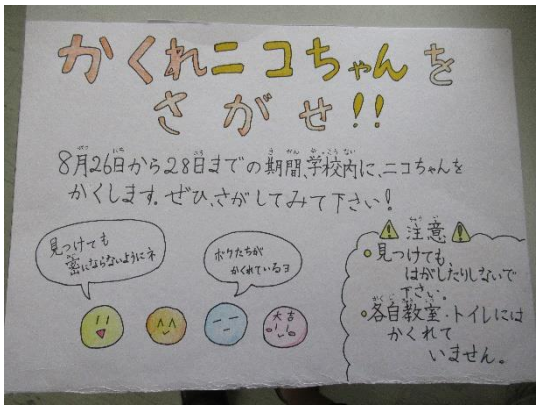
次の学級に委員会が変わる前に，自分たちの活動を引き継ぐ活動を行った。本来であれば直接話しながら引き継いでいくが，直接の交流を避ける必要があったため，動画や文章での引き継ぎをすることにした。委員長を中心に，「①よかったところ・うまくいったところ②直すところ③引きつぎたいこと」をまとめて，「引き継ぎ資料」とした。

次の委員会の時間では，前の学級からの「引き継ぎ資料」を基に確認をしたり，次の委員会担当者から活動内容を説明されたりして，新しい委員会をスタートさせた。

（４）委員会学級輪番制の実践例

①５－３掲示委員会イベント「かくれにこちゃんを探せ」

５年３組が初めて担当した委員会は掲示委員会であった。常時活動としては，委員会の時間に校内の掲示板に飾りをはったり，月の学校行事を伝える掲示物を作ったりする活動を行っていた。そのため，委員会の時間が終わると，掲示委員会としての活動はあまりなかった。



しかし，掲示委員会の委員長や副委員長はそれで終わりにしなかった。何かやりたいという意欲があった。そこで，「三密を避けながらできることをやってみないか」と声を掛けたところ，考え出したのが「かくれにこちゃんを探せ」である。校内の掲示板などに「にこちゃんマーク」をはり，見付けてもらう活動である。集まることが難しい中で，どうやって全校児童を楽しませることができるかを考え，掲示委員会のイベントとして実践することができた。

②５－３給食委員会「給食週間」

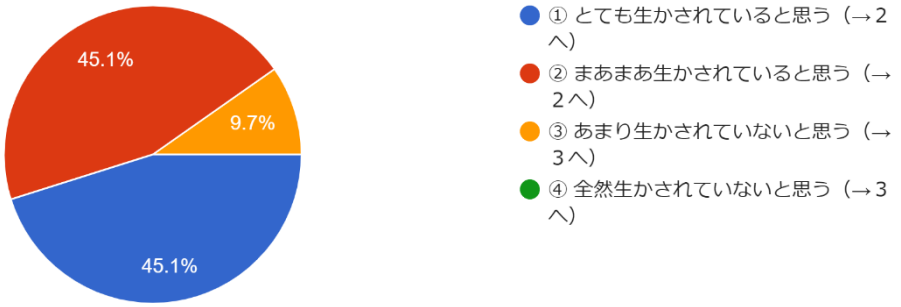
１月の給食週間の期間に給食委員会を担当することになった。給食週間の内容については担当の先生が決定しており，役割分担を行えば実施することができたが，全員に担当してもらう役割はなかった。そこで，給食週間の役割以外に，「勝手に給食週間をもりあげ隊」と称して，「給食週間」を手助けする役割を考えた。「給食に関するクイズラリー」「給食室の先生方のご苦労を知るための質問」「給食週間が実施されることを伝えるポスター作成」「（人気メニュー以外での）給食ランキング作成」「給食についての新聞作成」といったものを考えた。給食委員会としてクラス全員で給食週間を運営することになった。年に１度の大イベントを学級が担当することは滅多にないことであったこともあり，どの役割も意欲的に活動していた。担当の先生が「子供たちが積極的に活動してくれていたので，給食週間のやり方を考え直す」と話してくれたのが印象的だった。

３　成果と課題

（１）児童のアンケート結果から

今年度の委員会活動は，活動人数の見直しやできるだけ異学年で活動しないようにグルーピングを工夫して，従来の方法で活動している。「委員会学級輪番制」と「従来の委員会の方法」の両方を経験した現６年生（１１３名）にアンケートを取った。児童の多くが，昨年度の「委員会学級輪番制」を生かして，今年度の委員会活動を行うことができているということが分かる。

昨年度はクラスごとに全ての委員会を，今年度は一人一つの委員会を担当してもらいました。昨年度の委員会の経験が今年度の委員会に生かされていると思いますか。



＜①，②（生かされている）を選んだ主な理由＞

・５年生のときに１回経験していたので，何をするかなど分かっているのでスムーズに取り組めたから。
・どの委員会ではどんな活動をすればいいのかわかっているから，５年生にも教えられるし仕事を迷わずに進めることができたから。
・全部の委員会をやっているから，去年の副委員長をやった体験も生かされていると思う。去年のシステムは良い体験になった。
・どの委員会に入った人でも，昨年度活動を行っているので手順よく効率的に活動することができたと思います。委員会を決めるときには，すべての委員会を経験したことで自分にあった委員会ややりたい委員会をより早く選択することができたと思います。

＜③（生かされていない）を選んだ主な理由＞

・去年と今年でやったことがぜんぜん違うから。
・どの委員会も，全く違う仕事をするから生かされたことはない。

＜今年度の活動について＞

・２年間やってみて，どの仕事もちゃんと学校のためになっているということが分かりました。あまり目立たない委員会もあるけど影でやっているということが分かりました。

・昨年は全部の委員会を体験できて，各委員会のやっていることや大切さを学び，今年度は給食委員会に入りました。自分の目標は，下膳の際にひと声かけたり，困っている人を自分で探して手伝ってあげることです。その目標を特に頑張っています。

・これからの八幡の委員会では，計画委員会以外の委員会は飽きてしまう人がいるような気がするので何か月ごとかに交代をすることがあっても良いと考えています。

（２）「委員会学級輪番制」の振り返り（先生方のアンケート）

昨年度末，新年度計画のために「委員会学級輪番制」についてのアンケートを先生方に取った。「委員会学級輪番制」と比べることで，従来の方法の良さについてまとめることができた。

	立場	従来の委員会の方法	委員会学級輪番制
メリット	児童	◎長期的・継続的な活動 じっくり取り組める 仕事が分かる　活動の高まり ◎異学年交流（高学年）　責任感 ◎引き継ぎはいらない	◎いろんな仕事の経験 ◎全員が重要ポジションを経験 ◎クラスが同じ委員会→一体感 声掛け・クラス内の引き継ぎ ◎短期間・新しい取り組み →意欲・新鮮な気持ち
	教師	◎従来の方法に慣れている ◎引き継ぎの準備が必要ない	◎八幡小でなかなかできない 「リーダー育成」（縦割り活動がない） ◎（高学年担任） 学級経営の手立ての一つ
デメリット	児童	△人数制限による意欲の違い （１年間続くこともある） △学校を支える全仕事はできない	△中心メンバーの固定化 △慣れてきたのに次の委員会 振り返りを生かせなかった △５・６年（異学年）　行事との関連 △新しい取り組みの難しさ △引き継ぎの仕方
	教師	△（高学年担任）受け持ちの子の様子が分からない	△授業時間などの時間確保 △担当者と高学年担任との打合せが必要

（３）成果と課題

本実践は，決して「委員会学級輪番制」を広めるためのものではない。「従来の方法ができない」という状況下で，「何を大切にしたらいいのか」ということを考えることで，「委員会活動は学校を支える役割を果たす活動」と捉えた。その活動を実行するために，本来の委員会の目的でもある「異学年交流」という枠を外し，「委員会学級輪番制」という方法を選択した。例年通りに実施できる状況であれば，行われることはなかった方法である。いつもとは違う方法を実施することで，「委員会が大切にしたいこと」について見つめ直すきっかけとなった。

社会において，想定どおりに物事が進まないことがある。そんなときは，課題を発見し，解決する方法を考え，実行し，振り返る。児童に問題を解決する力を付けさせるために，学校があると言ってもいい。しかし，毎年同じ方法を行う中では，その力を育むことは難しい。生じる問題に対して，解決しようとする教師の姿を見せていくことが大切である。本実践は，現実の課題を子供たちとともに解決することを通して，委員会活動で大切にしたいことに気付いた過程を記したものである。